

～複数集落等で機能を補い合う～

ネットワーク・コミュニティ事例集



平成30年3月
大分県

はじめに

人口減少・高齢化の進展による、共同作業や伝統行事の開催など様々な集落機能の低下は、県民の安全・安心な生活に影響を与えます。

本県は、住み慣れた地域に住み続けたいという住民の願いを叶えるため、平成20年度を小規模集落^{※1}対策元年と位置づけ、県と市町村が連携して、集落機能の維持と地域の活力づくりに本格的に着手しました。

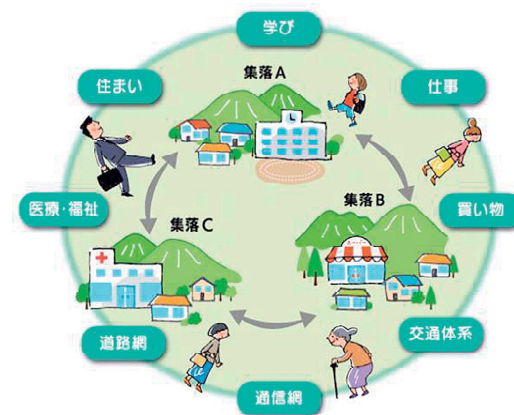
平成27年度からは、単独集落では立ち行かないところを近隣の複数集落等で補い合うネットワーク・コミュニティの構築を進めており、その担い手となる地域住民が主体となった地域コミュニティ組織^{※2}などの積極的な取組が各地で始まっています。

これまで、県内の48地区841の集落の取組を支援しており、その中から特徴的な取組や買い物弱者支援、小規模集落応援隊の活動について、事例集としてまとめました。今後の活動の参考になれば幸いです。

平成30年3月 大分県企画振興部

ネットワーク・コミュニティ

単独集落のみでは困難となりつつある共同作業等の様々な機能を複数の集落をネットワークでつなぎ、そうした機能を補い合いながら全体として地域の機能を維持していく仕組み



※1 小規模集落：大分県では、集落人口の多少に関わらず住民の半数以上が65歳以上の自治区等を小規模集落と呼んでいます。

※2 地域コミュニティ組織：地域住民を中心に、地域課題の解決に取り組む組織

目次

ネットワーク・コミュニティの構築に向けて	2
事例紹介	
掲載事例位置図	3
特産品づくりを軸とした地域づくり	
白杵市都松地区	4
幅広い世代の交流、人材育成	
佐伯市青山地区	6
宇佐市深見地区	8
地域福祉型による組織の構築	
国東市竹田津地区	10
竹田市宮城地区、城原地区	12
直売所を核とした生活サポート	
由布市小田原地区	14
佐伯市直川地区	16
豊後大野市清川地区	18
日田市大鶴地区	20
地域コミュニティ組織の法人化	
別府市東山地区	22
杵築市朝田地区	24
豊後高田市三重地区	26
買い物弱者支援事例紹介	28
小規模集落応援隊活動紹介	30

ネットワーク・コミュニティの構築に向けて

ステップ① 地域内の様々な主体での検討体制構築

何故、取組を行う必要があるのか、地域内でどのような団体が活動しているかなどの現状、地域が抱えている課題やニーズを地域の様々な主体を集めた話し合い等を通じて整理し、共有する必要がある。行政職員もこの会合に参加してサポートを行う。

ステップ② 地域住民のニーズやシーズの調査

ステップ①での整理をもとに、実際に地域住民の困り事や、必要な機能、地域に関係する地域内外の有用な人材や機能を調査。活動を円滑に進めるためにも、訪問による直接聞き取り調査が良い。

ステップ③ 計画実行の策定と組織体制の検討

ステップ①②で整理・調査した現状や課題を踏まえ、地域として目指す将来像とそれに向かった必要な取組を絵や文章化して共有することが大切。併せて、取組を推進するための組織を検討する。計画案は、地域全体に呼びかけた会合等で共有することが大切。その際、専門家による先進事例の紹介などを交えることも効果的。

ステップ④ 地域コミュニティ組織の立ち上げ、活動開始

ネットワーク・コミュニティ運営のためには、それを支える地域コミュニティ組織が必要。また、将来像に向かった取組は、人材やノウハウ不足ですぐに着手できないこともあることから、活動を持続的なものにするためにも、できることから始め、住民のニーズを踏まえながら少しずつ取組の幅を広げていく。

徐々にネットワーク・コミュニティとして機能していくことを目指す

掲載事例 位置図

